

伊賀市社会事業協会 2015

2015年2月28日 第30号

発行者

社会福祉法人伊賀市社会事業協会

理事長 西岡 時彦

〒518-0032 三重県伊賀市朝屋739番地の2

TEL:0595-21-5545

FAX:0595-23-6670

URL <http://www.iga-sjk.or.jp/>

すべては人から

—大戦終結七十年—

社会福祉法人伊賀市社会事業協会

常任顧問 森下達也

今年太平洋戦争終結から七十年をむかえる。私たちの老人ホーム（盲養護）では毎年八月十五日になると、あの時代に因んだ私の卓話を、お年寄りの皆さんに聞いて頂くのが何時しか慣例となっている。続けてほしいと言ってくさるので、調子にのって続けているのである。しかし、当法人伊賀市社会事業協会の理事長以下施設長二十余人はすべて戦後の生まれ、昭和六年生まれの私だけが今や文句なしの老人であるから、敗戦前後の時代を生きた者同士としてそこはかとなく響き合うものがあるのかも知れない。

多くの福祉施設でも、八月十五日には何らかの行事をやっていることだろう。一寸視点を変えてみると、高齢者の脳は、昔日の体験を回想することでかなり活性化すると科学的な実証があるのだそうだ。然りとて若い職員たちへ、お年寄りの回想に付き合いなさいと俄かに告げても無理というのだが、多少の工夫をすれば可能である。ともかく私は、お年寄りから消えゆく記憶を精々聞かせて頂くよう、職員たちに勧めている。職員自身の歴史観人生観の深化につながるだろうし、基礎的な判断力の向上にも役立つ筈だからである。社会福祉法人の本当の実力は、見かけの大きさでもないし、資金力の多寡でもない。そこに働く一人ひとりの「人間力」がどう育てられているかである。

さて、須臾の間の七十年であった。あの八月十五日は、正午をもつてすべての秩序が逆転するという凄まじいアンチテーゼの一日であったが、以前にもこの会報に書かせて頂いたように、私は大連で対戦車壕を掘る作業中にその時をむかえた。ソ連機甲部隊が指呼の間に迫っていたから、もし降伏があつたら、私たちが旧制中学生はすでに軍事教練を受けていたことでもあり、形ばかりの戦力としてソ連戦車へ突撃させられていたであろう。その後一年半、

ソ連軍政下の生活を経て無事祖国の土を踏んだが、思えばどれ程多くの人材の血が、湯水のごとく流されたことだろう。たった七十年位で、日本人の記憶から消えてよい筈もないのだ。

それでもこの国は焼野原から復活した。その原動力は、生き残った日本人一人ひとりの精神と資質であつたと私は信じている。損得勘定つまり市場原理によるインセンティブは、あくまで副次的なものである。再スタートにあつた日本の日本は、西側資本主義経済社会の一員であつたが、その基本的な仕組みはアメリカのそれと一線を画していた。つまり社会の中の格差を極力抑えることによって、日本流の連帯と結束と絆の社会を維持したいという先輩たちの意思が、色濃く働いていたことを私は感じ取る。

例えば、アメリカとは少々異質な日本流所得再分配システム、ライフステージ全体に配慮した雇用制度、憲法と社会福祉事業法（現社会福祉法）を根拠とする公的責任の転嫁禁止条項、同じ根拠法による措置委託制度、非営利と奉仕性を根幹とするユニークな社会福祉法人制度、等々どれをみても視線の先には何時も「人」があつたのだ。底を流れる理念は、「規律ある民間活力と信ずるに足る公的責任との調和」であろう。何と素晴らしい。

嗚呼、時はくだり、今やこのような文章を書いていたら、守旧派として罵りを受けるかも知れない時代となつた。念のために、私は社会主義者ではなく、また、かつては企業経営者のはしくれであつたことを申し添えて、この一文を終わりにさせて頂く。



夕日を背に芭蕉さん

第29回 子どもフェスティバル

〜冒険・発見!楽しさいっぱい・あそびがいっぱい〜

11月8日、ゆめドームうえのにおいて、子どもフェスティバルを開催しました。

このフェスティバルは、子どもたちがあそびを主体的に体験する中で、発見・驚き・感動を味わい、親子のふれあいを深めていただき、また、地域の方々にもっと当法人の保育園を知っていただくために始めたものです。今年で29回目を迎えました。

身近にある様々な素材を生かして作った上野城や忍者列車を入口に配し、皆さんをお迎えしました。子どもたちは、運動あそびコーナーで、忍者



△くるり、忍者みただね

になった気持ちでどんでん返しや水くぐりなどを体験しました。音あそびコーナーでは、風や波の音、太鼓やギターの音色を楽しみ、ことばあそびコーナーでは、しりとりあそびなどを楽しみました。ボランティアの皆様には、今年も伝承あそびを教えてください、大人も子どもも夢中で遊びました。ゆかいなコンサートもあり、うたのお姉さんやピエロ、マジシャンの登場に、会場は盛り上がりしました。約3,200名の方が来場され、休日のひとときを楽しんでいただきました。



△うたのお姉さんやピエロと一緒に

佐那具保育所との交流会

～4月になったら一緒に学校へ行こうね～

府中保育園

当園の年長児は、佐那具保育所の園児と共に府中小学校へ入学することから、友だちの輪が広がるようにと、両園の交流会を行なっています。11月14日の交流会では「子どもフェスティバル」に出品したどんでん返しや手作り笛(カズー)を作って遊びました。最初は緊張気味の子どもたちも次第に打ち解け「一緒にしよう」「こうしたらどうかな」と声をかけ合い、楽しいひとときを過ごしました。別れ際には「また遊ぼうな」と名残り惜しそうな表情も見られました。



△紙バックでカズー作り「どんな音が出るかな」

秋の遠足

～楽しかった消防署見学～

睦保育園

秋晴れの好天に恵まれた10月16日、消防署と上野公園へ遠足に出かけました。

消防署では、はしご車やポンプ車などの説明に、園児は目を輝かせて聞き入っていました。高いビルに取り残された人を救助するためのはしごが伸び始めると「わあー」と歓声をあげて応援しました。消防署を後にするとき「大きくなったら消防士になりたいなあ」と夢をふくらませて、消防士さんに手を振る子どもいました。



△「消防士さんすごい」

「おはなし大好き!!」

絵本ボランティアグループ
『もこもこ』による読み聞かせ



子どもの読書活動を推進するため、平成15、16年度に絵本ボランティア養成講座を開催しました。講座終了後に、受講者有志により誕生した絵本読み聞かせボランティアグループ『もこもこ』。現在も精力的に活動し、当法人保育園児や子育てひろばを利用する未就園児親子、放課後児童クラブ利用児を対象に、読み聞かせをしてくださっています。子どもたちは「もこもこさん」と呼び、「今



△「きんぎょ、みつけた!」



△絵本に集中

日はどんな本かな」と絵本に集中します。楽しいお話の世界をそこはかたなく作り出してくださいます。一冊を読み終えると「もっと読んで欲しい」というリクエストに応えて数冊の絵本を読んでいただいています。

年齢やその日の子どもの反応に合わせて絵本を選んでくださる「もこもこさん」の読み聞かせを、みんなが楽しみにしています。



わかば会研修



よりよい保育を目指して 法人内公開保育



△異年齢児の公開保育の様子

わかば会は、当法人14保育園と心身障害児療育保育施設「かしのみ園」の職員で構成する研修組織です。毎年、福祉事業者としての基礎的な資質向上を図るための研修計画を立て、実践研修を行なっています。保育部会、給食部会、学童部会に分かれての研修会と、全員参加による全体研修会を実施します。保育部会では、14園が交代して公開保育を行なっています。担当園は、全職員で子どもの育ちを保障する保育、環境、関わりなどについて検討し、担任がその結果を公開します。参加者は、それぞれ研修目的をもって公開保育に臨みます。実際の保育を見て意見を交換し、検討することで、自分の保育を振り返ったり、新たな気づきを得たりして、日々の保育に活かし、保育の質の向上につながっていることを実感しています。

今後も、保育の質の向上を目指して、研修の充実を図っていきたいと思います。

わかば会は、当法人14保育園と心身障害児療育保育施設「かしのみ園」の職員で構成する研修組織です。毎年、福祉事業者としての基礎的な資質向上を図るための研修計画を立て、実践研修を行なっています。保育部会、給食部会、学童部会に分かれての研修会と、全員参加による全体研修会を実施します。

保育部会では、14園が交代して公開保育を行なっています。担当園は、全職員で子どもの育ちを保障する保育、環境、関



△公開保育後の意見交換会



△点字で名刺作り体験



△「なしのき寄席」に出演した桂三金さん
おこなし



△藤本流藤奈美会の皆様

第14回 往古梨まつり

11月3日、14回目となる往古梨まつりを開催しました。今年はより多く、地域の方に気軽に参加していただけるよう、地域巡回バスを運行しました。

メインのアトラクションは桂三金さん、桂雀五郎さんをお迎えした梨ノ木寄席。あいにくの強風でしたが、会場は大きな笑い声で包まれました。その後は、ゲームや飲食などのお楽しみコーナーを回り、思い思いの時間を過ごしていただきました。

今回、新たなコーナーも設けました。三重県立盲学校の皆様によるマッサージ体験では、丁寧にコリをほぐしていただき、心身共にリフレッシュできたこと好評でした。また、森永食品クック様の防災ブースでは、水・電気・火を使わずにそのまま食べることができる備蓄用非常食の試食等を行ない、有事の際の対応への関心がますます高まったようでした。

114名のボランティアの皆さまをはじめ、多くの方々にご協力いただき、往古梨まつりを成功裏に終えることができました。本当にありがとうございました。



△県立盲学校の生徒によるマッサージ体験



△高校生ボランティアによるお楽しみコーナー



△みんなで手ぬぐい体操



△ハワイアンムード満点

第二梨ノ木園のアトラクションでは、長田地区のフラダンスサークルの皆様にご披露いただきました。外は北風が吹いていましたが、エレベーターで3階へ上がり奥へと進むと…そこは南国ムード漂う別世界。花のレイをご利用者の皆さまにもかけていただき、普段とはひと味もふた味も違う、優雅なひと時を過ごさせていただきました。

「フラダンス」
心をひとつに
笑顔でアロハ!
第二梨ノ木園

手作り「珠のれん」完成 盲養護老人ホーム 梨ノ木園



△一珠一珠に集中して

梨ノ木園では、週2回個別にリハビリレクリエーションを行なっています。活動を続けることでご利用者はベッドで過ごす時間が減り、日中活動が活発になると、笑顔が増えてきました。そこで、さらに目標を持った生活につなげるために検討を重ね「珠のれん」を作ることになりました。木製のビーズに紐を通していくことが主な作業です。皆さん真剣な表情、時折笑顔もあり頑張って完成することが出来ました。完成した珠のれんは、地域の作品展にも出展し、「やりがいのある作業だった」とご利用者からも喜んでいただきました。



△「完成したよー」

ほっとクラブ —いきいき趣味活動—

老人デイサービスセンター なしのき

当センターでは、風呂敷2枚で作る「巾着作り」がブームになっています。きっかけは、ご利用者が手作りの風呂敷巾着を持参されたことからでした。生活の中で風呂敷をととても重宝していた娘時代を思い出しながら、「もう一度作ってみよか」のひとことでスタートしました。何十年も前の記憶を辿りながら「昨夜、巾着をほどいてみたら思い出したで」「ここはどう縫ったらええの」と、言葉のキャッチボールが弾みます。今日も心地良いミシンの音と真剣に針を持つ手が素敵な作品を作り上げていきます。



△仕上りを想像しながら柄選び



△だんじりを背景に…

学し、素敵な笑顔が溢れていました。日本文化の粋を集めた伝統の祭りを見ようと思死になりました。

る方、お囃子が町によって違うことに関心を持たれる方など、一人ひとりが祭りを楽しませていました。また、スマートボールの屋台では童心に返り、ボールを穴に入ると必死になりました。

10月23、24日の2日間、上野天神祭に出かけました。昔、家族と訪れたことを懐かしむ方や、初めて見る見事なだんじりをじっくり眺める方、お囃子が町によって違うことに関心を持たれる方など、一人ひとりが祭りを楽しませていました。また、スマートボールの屋台では童心に返り、ボールを穴に入ると必死になりました。



△祭りの屋台でゲームに夢中…次こそ入れるぞ！

上野天神祭に行きました

身体障害者支援施設 梨ノ木園

特集 ～地域の皆さまに支えられて～

当誌は第30号発行の節目を迎えることができました。

これも当法人が多くの皆さまに支えられているおかげであると感謝いたします。

私たちが日ごろ大切にしている地域の方々とのつながりを、ほんの一部ではありますが、紹介させていただきます。



△20年間ありがとうございます

ご近所の中野美智子さんは、地域を見守ってくれているお地藏様から、かしの木ひろばの前までの溝を、毎朝、掃除してくださっています。強風で落ち葉が飛び散る朝でも、ほづきとちりとりに手を掃除し、最後に打ち水をしてくださいます。

また、登校する子どもたちや往來する方に笑顔で「おはよう、気を付けて行きや」と、声を掛けてくれています。私たち職員は、毎朝、感謝の気持ちを込めて挨拶をします。中野さんのおかげで、清々しい気持ちで一日のスタートが切れます。

毎朝ありがとうございます
かしの木ひろば
ごぞいます

菜園活動

～たくさんの収穫バンザイ!!～

予野保育園



保護者や地域のボランティアの皆さまと共に、菜園活動を楽しんでいます。じゃが芋やさつま芋などの野菜の栽培や、ひょうたん作りなど、やさしく手を取り教えてもらっています。子どもたちが、ボランティアの皆さまと栽培や収穫について話している姿はとても微笑ましいです。

菜園活動の体験を通して、感性や人に感謝する気持ちが育まれるようにと願っています。



△「大ききひょうたんできるかな」

合同避難訓練

梨ノ木園・第二梨ノ木園・梨丘園



△屋上からの救出訓練

災害が起こった際、当施設に在園するご利用者160名全員が安全に避難できるよう、地元消防団と伊賀市消防本部の協力を得て、合同避難訓練を実施しています。

合同訓練は25年以上前から、毎年様々な場所からの出火を想定し、通報、初期消火、避難誘導、放水訓練を連動して行なっています。

これからも万一の災害に備え、地域の皆さまと協力し合える体制づくりを強化していきたいと思っています。



△消防団員による放水訓練

みんなの床屋さん ～梨ノ木園の歴史とともに～

梨ノ木園・第二梨ノ木園・梨丘園

奥田英夫様、やえ子様ご夫妻は、昭和46年の梨ノ木園開園当初から理髪奉仕に来園してくださっています。

40数年もの長きにわたり、多くのご利用者とふれあい、語らいながら施設の歴史を見守ってきてくださいました。

市内で理髪店を営まれている奥田様ご夫妻ですが、これからもお元気で、いつまでも美しくありたいと願うみんなの床屋さんでいてください。



△第二梨ノ木園内の理髪室にて

おはなしの会 ～たのしいな～ 古山保育園

古山郵便局の局長をされている中村節子さんは、20年間にわたり、年2回「おはなしの会」に来てくれています。時にはパネルシアターもあり、毎回、工夫してくださる内容にみんな大喜びです。「おもしろかった」「楽しかった」と、家庭でもおはなしの会の話題で盛り上がっているようです。

子どもたちは、お話が大好き。読み聞かせは、心地よい時間と共に、心が豊かになれるひとときのようなようです。



△「おうちの人といっしょにみたよ」



△「手をつないでいるから大丈夫」

西出成子さんから

学ぶこと

心身障害児療育保育施設 かしのみ園

西出成子さんは、かしのみ園開園当初の保護者です。開園から30年、ボランティアとして療育保育のサポート、人形劇上演のほか、保護者コースや健康体操の活動に積極的に参加され、ご自身の体験談も聞かせてくれます。そのお話から、人間としての幅広さや奥深さが伝わってきます。何事にも前向きに行動する大切さを学ばせてもらっています。

新成人
おめでとう!!おめでとうございます
かしの木ひろば

3名の新成人がスーツや振袖姿で登場すると「かっこいい!」「かわいい!」との声が飛び交いました。3名は少し緊張しながらも、仲間やご家族と何枚も記念写真を撮りました。

理事長をはじめ、みんなからのお祝いの言葉と、祝福の握手で緊張もほぐれ、満面の笑顔を浮かべていました。写真とお祝いのメッセージで埋め尽くされた色紙をプレゼントされると、しっかりと握りしめ見入っていました。

新成人を囲んで、ご家族とご利用者で楽しくあたたかい時間を過ごし、新たな門出を祝福しました。



△祝! 新成人

空に向かってそびえる
大阪の新名所
—遙かなるハルカス—
かしの木ひろば



△「日本一は高いなあ」キヤとんかつなど、思い思いの食事をとり、お腹一杯になった後、いよいよ60階の展望台を目指しました。上りのエレベーターを待つ間も「どんなんやろ?」とわくわくされていました。展望台フロアに着くと、地上300mの高さに圧倒され「高いなあ!」と一瞬足がすくんだ様子でした。しかし、大阪市内を一望し「建物や人が小さいわ」「おもちゃの自動車みたい」「通天閣が見えるで!」と、はしゃぎながら眺望を楽しまれました。



△「こんな景色はじめて!」

今年のバス旅行は、日本一の高さを誇るビル「あべのハルカス」に行きました。

到着すると、ボランティアの方々と、ハルカスダイニングやあべの市場食堂などのレストラン街へ一目散に向かいました。パンケー

海の博物館へ
～点訳・音訳ボランティア合同研修会～
上野点字図書館



△「海の博物館」前で記念撮影

10月7日鳥羽市浦村町にある「海の博物館」を見学しました。

館内には漁業に関する道具や民俗資料

などが約5万点も展示されており、その中には、約7,000点の国指定重要有形民俗文化財が含まれています。

館内の見学に先立ち、館長から「あま」についてのお話をお聞きしました。NHK朝の連続テレビ小説『あまちゃん』で注目されましたが、女性は「海女」、男性は「海士」と表記し、日本の海女の約半数が鳥羽・志摩地域で従事しているそうです。

午後からは、「海藻おしば」作りにチャレンジしました。鳥羽の海で採れた15種類ほどの美しい海藻を、ハガキやしおりの上に並べて作ります。参加者全員が童心に返り、熱意と美的感覚が反映された思い出に残るオリジナル作品を完成させました。



△おしば作りの様子

◆ご支援ご協力いただいている方々◆

(平成 26 年 7 月～平成 27 年 2 月)

個人

—敬称略・五十音順—

- 井岡 昭、井岡 千草、石山 淑子、伊藤 利史、稲垣紀代子、稲森千鶴子、
- 稲森 弘子、稲森 光子、稲森 律子、上島伊佐雄、上谷 隆昭、上野 庸
- 大永 孝子、岡島まゆみ、岡森 明彦、岡森眞理子、奥田 英夫、奥田やえ子、
- 貝増 恒子、勝 真由美、勝島眞佐子、門田 進、上村 倫子、川合 弘美、
- 川口 欣子、河田 昭子、北泉 優子、北寺 悦子、木谷 栄一、木村都美子、
- 葛岡エミ子、後藤 のぶ、斎藤眞紀子、佐々木聖子、清水 みどり、清水みどり、
- 城本 隆子、新土居征四郎、杉本 竹雄、田村 敏子、田山紗知子、塚本 初子、
- 竹島 和美、田中美代子、玉岡 宗成、水田 充代、高杉すみ子、
- 津田 美恵、土井あき子、戸上 宗賢、豊岡 百子、豊田 實、豊田 礼子、
- 中村 紘一、中森 定子、中島 慎二、中出 洋美、中野美智子、西村 節子、
- 西口 保次、西出 成子、服部 龍子、服部 康祐、原谷 優磁、西口 節子、
- 福田 定子、藤井 充子、藤井 洋子、藤永 清信、藤林 政代、藤森 直美、
- 藤森 裕子、古川 喜代子、古川 節郎、堀池 克昌、堀池 良一、前川 妙子、
- 前川 鶴子、松田 雅子、松本 学、松山 周子、丸山 理江、水野 文子、
- 南 つし江、南出 恒久、宮田 琴代、村田 隆子、百北富美子、百北 幸雄、
- 百永 美己、森 喜良、森 令子、森井久美子、森岡 佑子、森下 弘子、
- 山本 濱子、吉岡 美聡、與品 正一、山口 義美、山下 吉男、山本 君子、

団体

—敬称略・順不同—

- 上野点字訳書グループあい、上野音訳グループしのび、
- 名張点訳グループあかり、名張音訳グループこだま、
- 上野点字図書館朗読ボランティア、ボランティアグループあゆみ、
- ボランティアグループミックスジュース、上野手をつなぐ育成会、
- 絵手紙いろは、絵本ボランティア「もこもこ」、
- オカリナサークルきらきらほし、煌星俳句会、蕉門ホール「語り部塾」、
- マンマミータ、人形劇サークルにし、にんじんクラブ、ひよっこ育成クラブ、
- 藤本流藤美会、三田コーラス、伊賀市上野視覚障害者福祉会、
- 伊賀市更生保護女性の会、伊賀市シルバー人材センター、
- 伊賀上野ライオンズクラブ、伊賀北ライオンズクラブ、
- 上野東ロータリークラブ、伊賀市権護委員協議会、伊賀FCくノ一、
- 24時間テレビチャリティークラブ、伊賀市民生委員児童委員連合会、
- 上野高等学校、岡波看護専門学校、長田小学校、三重県立盲学校、印代地区、
- 大滝地区、桂地区、朝屋地区、長田地区、治田地区、予野地区、
- 伊賀市主任児童委員会、伊賀市民生委員児童委員連合会、
- 上野徳居町老人クラブ、上野福居町老人クラブ、大野木環境保全会、
- 大野木ゆうゆうクラブ、小田地区市民センター、小田町住民自治協議会、
- 神戸老人クラブ連合会、神戸老人クラブ連合会女性部、下友生営農組合、
- 朝屋老人クラブ、寺町自治会、寺町ふれあいいきいきサロン、寺町老人会、
- 東部地区民生委員児童委員協議会、友生老人クラブ、中瀬老人クラブ連合会、
- 長田地区市民センター、長田地区住民自治協議会、花之木社会福祉協議会、
- 花之木地区委員会、古山地区住民自治協議会、三田地区住民自治協議会、
- ゆめが丘地区民生委員児童委員、予野里つくり委員会、射手神社、田守神社、
- 平井神社、安立寺、常任寺、大超寺、念佛寺、青山福祉会、
- グリーンセンター福祉会、恒風寮、グリーンティー高尾、コーカ共同製茶、
- 伊賀北部農業協同組合、今岡米穀店、伊賀上野ケールテレビ、
- 伊賀第一共同製茶工場、田山南部共同製茶組合、小川製糖、奥田理容店、
- 割烹志摩、金谷、欣榮堂、甲野屋、サンジヨク、親和工務店、伊達商店、
- 谷本洋陶房、NAC、名張屋製麺所、鍋本商店、西尾石油店、西尾デンキ、
- 白鳳電気、福田豊工務店、マルノウ、村脚電気、名阪設備工業、
- 森永食品クック、米岡家具センター

日盲社協生活施設部会研修会

盲養護老人ホーム 梨ノ木園

日本盲人社会福祉施設協議会「生活施設部会 施設長並びに職員研修会」を11月27日と28日の2日間、市内のホテルで開催し、全国から33名が参加されました。

研修は、「心と技の伝承」と「摂食嚥下障害がある方に対する食事支援」についてそれぞれ講演をいただきました。翌日は、「在宅視覚障がい者への支援」をグループ討議のテーマとして活発な意見交換がなされました。その後、梨ノ木園を見学していただき研修会を終えました。



△日盲社協施設長及び職員研修会に参加された皆様と共に

受賞おめでとうございます

～第44回「朗読録音奉仕者感謝の集い」～

上野点字図書館



9月12日、名古屋市内のホテルにおいて、公益財団法人鉄道弘済会と社会福祉法人日本盲人福祉委員会主催による、第44回「朗読録音奉仕者感謝の集い」の東海地区表彰式典が開催されました。この式典の中で、上野点字図書館音訳ボランティアの岸森千賀子さんが校正奉仕者表彰を受賞されました。

本を読むことが好きで始められたという活動は、今年で20年。録音図書校正だけでなく、自治体広報や新聞コラムの音訳、梨ノ木園での読書会活動まで、幅広くご活躍されています。

今回の受賞を心からお祝い申し上げますとともに、多年にわたるご奉仕に深く感謝いたします。



△音訳ボランティア 岸森千賀子さん

かしの木ひろば20周年

かしの木ひろば

平成6年に介護型の在宅障害者デイサービスとして開設してから20周年を迎え、今では30名の方がご利用されています。その翌年に開始したヘルパー事業は、現在90名の方にご利用いただくまでになりました。また、市役所内で実施している伊賀市障がい者相談支援センターは、平成9年にかしの木ひろばで開始した事業です。地域の皆さまには大変お世話になり、支えられての20年だったと感謝しています。

記念式典には、ご利用者、地域の皆さま、関係者の方々等100名をお迎えしました。多くの励ましのことばをかけていただいたり、懐かしい方々と再会したりと和やかに過ごしました。中でも高石ともやさんの記念コンサートは大いに盛り上がり、コンサートの後には、メッセージを添えた素敵なサインをプレゼントしていただきました。多くの笑顔があふれた心温まる式典となりました。



△高石ともやさんと一緒に

メッセージを添えた素敵なサインをプレゼントしていただきました。多くの笑顔があふれた心温まる式典となりました。

かしのみ園30周年記念の集い

心身障害児療育保育施設 かしのみ園



10月18日、県・市行政関係者や開設当初よりかしのみ園の運営にご尽力い

△子どもたちの成長を願いながら…ただいている方々、卒園児、在園児、保護者を含む総勢約100名でかしのみ園30周年の集いを挙行了しました。森下達也常任顧問による開設に関する講話、当初に発足したふれあい会（保護者会）のコーラス披露、スライド放映と続き、30年のあゆみを感慨深く振り返りました。

皆さまのお話等から子どもたちの発達を願う人の絆と、障がいに真摯に向き合い研究研鑽を重ね続けてきた先輩諸氏のひたむきさが実を結んだものであることを強く感じました。

30年を経て、かしのみ園の個別的専門的療育保育とみどり保育園との協働が、かしのみ方式として専門家の間で認識され定着してきました。今後も伊賀市の子どもの療育の場であり続けることができるよう、職員一同初期の理念を深め、専門機関・保護者・地域の方々と連携し、次の世代へ受け継いでいきたいと思います。

梨ノ木診療所・法人本部事務局
上野点字図書館・伊賀市盲人ホーム
（生活介護・就労・居宅介護訪問介護行動援護・同行援護）

障害者支援施設 梨ノ木園
特定相談支援事業所 梨ノ木園
障害福祉サービス事業所 梨ノ木園

風の丘第2風の丘
フレンズうえの第2フレンズうえの
キッズうえのふたば

【放課後児童クラブ】
ヴェルデ

日中一時支援事業所 かののみ園
心身障害児療育施設 かののみ園

府中保育園・ゆめが丘保育園
ひかり保育園・みどり保育園

古山保育園・みどり保育園
予野保育園・長田保育園

友生保育園・花之木保育園
三田保育園・中瀬城東保育園

曙保育園・睦保育園
（保育所）

在宅介護支援センター なしのき

老人デイサービスセンター なしのき

特別養護老人ホーム 梨ノ木園
老人ショートステイ 第二梨ノ木園

当法人の施設

ありがとうございました
～24時間テレビチャリティー委員会～
かしの木ひろば



公益財団法人24時間テレビチャリティー委員会様より、スロープ付き軽自動車をいただきました。全国の皆様から寄せられた善意ある寄付金によって実現した車輜のご恵贈、その思いを胸に、大切に有効に使用させていただきます。

編集後記

暦の上では春を迎えました。しかし、まだまだ寒い日が続く、雪害に見舞われている地域もあり、穏やかな春がまだおおいそうです。

さて、NHKでは大河ドラマ「花燃ゆ」が放映されています。松下村塾の若者達の間模様を描きつつ、幕末から明治維新の激動の時代を生きた人物を描いたものです。登場人物達は、荒波に翻弄されながらも必死に新時代を生きたのだらうと推測できます。今年には私たちが携わる社会福祉にも混迷と荒波が待ち受けているかもしれません。しかし、勇気をもって障壁に立ち向かっていきたく思います。会報も節目の30号となりました。今回は、「地域とのつながり」を特集記事にいたしました。

今後とも皆様のご意見ご教示を仰ぎながらより充実した会報にしていきたいと思います。（編集者より）